

学術情報処理センターの紹介

学術情報処理センター長

渡辺義明

Email:watanaby@is.saga-u.ac.jp

1 はじめに

平成 15 年 10 月の大学統合に伴い、(旧)佐賀医科大学情報処理センターと(旧)佐賀大学学術情報処理センターが統合して、(新)佐賀大学学術情報処理センター(以下、センターと略す)となりました。そこで今年度のセンター広報では、統合したセンターの概要を改めて紹介することとしました。なお、ここで紹介する内容は平成 16 年 3 月段階のものです。

2 設置目的

センターは、「佐賀大学における学術情報を支える基幹情報システムを統括するとともに、大学の共通の情報基盤の整備推進及び電子図書館機能の充実を図ること」を目的とする学内共同利用施設として設置され、以下の業務を行います。

1. 基幹情報ネットワークの整備及び維持に関すること。
2. 共通の学術情報システムの整備及び維持に関すること。
3. 電子図書館の整備及び維持に関すること。
4. 学内及び地域情報化の技術支援に関すること。
5. その他共通の情報基盤の整備推進に関すること。

3 組織

センターは、本庄キャンパスにメインセンターを、鍋島地区に医学サブセンターを置いています。増大する業務に対応するため、利用者管理等の統合可能な業務はメインセンターに集中して無駄を省くようにしていますが、機器やネットワークの管理、利用者対応など、現場でないと対応できない業務が多く、下の組織構成で運営しています。センターの場所は、メインセンターは事務局棟北側に、医学サブセンターは院生講義棟 1 階と講義棟 3 階に位置します。

センター長・教授(併)			
(メインセンター)	(医学サブセンター)	(事務局・図書館)	(運営委員会)
副センター長・教授 1	副センター長・教授(併) 1	係長(併) 1	附属図書館長・分館長
助教授 2	助教授(併) 1	係員(併) 2	教養教育運営機構長
助手 1	技官 1		科学技術共同開発センター長
技官 3	技術補佐員 2		総合分析実験センター長
技術補佐員 3			各学部・附属病院選出委員
			センター長、センター教員

4 業務概要

業務範囲は多岐にわたっていますが、その具体的内容は他の記事もしくはセンターの Web ページ [1] をご覧下さい。また、利用方法等で不明な点はセンターまでお問い合わせください。主要なものを以下に示します。

- ネットワーク管理：基幹ネットワーク、部局内ネットワークの大部分、キャンパス間ネットワーク、学術情報ネットワークとの接続、商用ネットとの接続、ダイヤルアップ回線等を維持・管理するとともに、附属の学校等との接続、遠隔地の附属センターとの接続、地域ネットワークとの接続等の維持・拡大に努めています。また全教室やロビー等の公開空間にも教育用 LAN を提供しています。
- 演習システム管理：本庄地区の3演習室で Windows と Linux 環境を、鍋島地区の1演習室で Windows 環境を提供しています。これらの演習室では、一般的な Windows もしくは Linux 環境を利用して、オフィスソフトやプログラミング、インターネット利用等の学習ができます。
- 情報セキュリティ管理：ファイアウォールやコンピュータウイルスフィルタシステム、侵入監視システム等を設置して監視し、不正アクセスやウイルス侵入に備えています。またコンピュータウイルス対策ソフトのサイトライセンスを取得して希望者に貸出しています。端末設置場所から利用者が特定できない公開空間には認証を行う教育用 LAN を配置し不正アクセス等を防いでいます。さらに学外、学内からのトラブル連絡や監視による不正発見、コンピュータウイルスの発生に際して、関係組織と連携して対応しています。
- データベースシステム管理：オンラインシラバス、教職員基礎情報、教員業績、貴重書、書誌データ、博士・雑誌論文など様々なデータベースシステムを維持し、その横断検索の提供をしています [2]。また研究データ公開の支援も行います。さらに発展した大学データベース作成に協力しています。
- 利用者管理：全ての学生の入学・卒業に伴い、利用者の登録・削除を行っています。全教職員についても同様に行っています。さらに、これらの1万人近い利用者に対してパスワード忘れなどのトラブル対応を逐次行っています。また学内の多数情報システムでの利用者認証情報を統合するシステムの構築を行っています。
- 各種サーバ管理：ネットワーク制御やアプリケーション利用に必要な各種のサーバを数十台規模で管理しています [3]。
- Web サーバ環境提供：部局等が Web 公開の際に利用可能なサーバ環境を提供しています。また利用者が個人の Web ページを公開するためのサーバ環境を提供しています [4]。これは原則として学内公開ですが、教職員は申し出により学外公開も可能です [5]。
- メール管理：全ての学生、教職員のメールアドレスを維持しており、その送受信サービスを提供します。Web 上からメールの読み書きが可能な WebMail のサービスも提供しています。またグループでのメール配送のためにメーリングリストのサービスも提供しています。
- ソフトウェア貸出し：ウイルス対策ソフト、電子メールソフト、統合オフィスソフト、数式処理ソフト等のサイトライセンスを取得し、その貸し出しを行っています。

- 機器利用サービス：カラーコピー機および B0 サイズまで印字可能な大型カラープリンターを利用提供しています。
- SCS 管理：通信衛星経由の遠隔講義・会議システムを提供しています。
- 情報提供・相談受付：センター Web ページ [1]、不定期に発行するセンターニュース、年 1 度発行のセンター広報、パンフレット等で情報提供を行っています。また情報関連をテーマにした特別講演会や利用講習会を行っています。電話及び来訪での利用相談も受けています。

5 先進的取り組み

大学の情報環境は、多様な利用者が多様なシステムを比較的自由に利用することが要求されており、一様な利用者に対する固定的なシステムと業務を提供することの多い企業等の情報環境とは大きく様相が異なります。そのため企業システム等をそのまま導入することでは対応が困難です。また、情報関連技術の発展は急速であり、旧来のものをそのまま維持するだけでは要求を満たすことはできません。センターでは、大学にふさわしい情報環境の実現を目指して、常に様々な研究・開発・システム構築に取り組んでいます。ここでは、そのような取り組みのうちから全国的に誇ることのできる取り組みをいくつか紹介します。

- 電子図書館「とんぼの眼」：大学の持つ研究、教育に関する情報を広く収集・提供することを目指して、2000 年から構築を進めており、多様な情報が蓄積されて来ています [2]。情報公開・評価の時代を迎え、より内容を充実していくことが求められています。
- 教育用 LAN：不特定多数が出入りする場所でも無線および有線のネットワークが利用できるように、2001 年から配備を進めています。既に全教室、会議室、図書館、学生居室等、キャンパスのほぼ全域に設置されており、学生や教職員は PC を持参すれば、キャンパス内の様々な場所からネットワークを利用できます [6]。さらに、このネットワークでは、独自に開発した利用認証システムを利用してセキュリティを保っていますが、このシステムも評価されています。
- ディスクレス・デュアルブート演習システム：2002 年から本庄地区の演習室は、Windows と Linux の 2 つの環境が選択でき、ネットワーク経由で起動するシステムとしています。各 PC にハードディスクを持たないため、故障低減、統一環境の維持、システム更新の容易化が図られています。
- 統合認証：ネットワーク上のサービスが普及してくるにつれ、様々な場面で認証が必要となっています。このため、ネットワーク利用や Linux 利用、Windows 利用、図書館利用等の多様な認証を一元化するシステムを構築しています。これは、利用者および管理者の両方の手間を省くこととなります。今後、システムの構築が進むと、様々な利用者情報提供が学内に対して可能となっていくでしょう。

6 おわりに

情報技術はいまや大学にとって必要不可欠なものとなっています。情報環境を快適かつ安全に保ち得ることは大学の諸活動の前提となります。センターでは、情報環境の維持・発展に最大限の努力を行います。利用者の皆様には、以下の点について、ご理解とご支援をお願いいたします。

- センターは、大規模なシステムを管理する作業を行っており、常時、トラブル対策やシステムの見直し・更新作業に追われています [7]。一人の利用者から見たら単純な作業でも、数百、数千と集まると膨大な作業量となる点をご理解ください。
- センターでは、基本システムやネットワークが円滑に稼動することに精力を傾けています。その上に載るコンテンツや応用システムについても可能な支援をいたしますが、基本は各業務の実施組織が必要な責任・実施体制を整えていただくこととなります。応用システム等を計画されたときには、円滑な運用のために、前提となるネットワークや基本システムについてセンターと情報交換をお願いします。
- 情報セキュリティに関連するトラブルが頻発しています。各人の管理するコンピュータには、十分なセキュリティ対策を取って頂くようお願いいたします。なお不明な点はご遠慮なくお尋ね下さい。
- センター建物が狭隘なために演習室を始めとして研究・開発・教育・事務等のどれにも必要なスペースが確保できず、様々な影響が出ています。建物の新設が急務となっていることをご理解ください。
- 研究開発は大学の使命の一つです。センターも業務センターであるとともに研究センターでなければならないと考えます。大学にふさわしい新しい情報環境の創造には、研究開発の人員と時間が必要なことをご理解ください。
- センターは、当初の計算センターから情報教育センター、ネットワークセンター、ユーザサポートセンター、データセンター、情報セキュリティセンター等と、その概念を拡大してきました。しかし現センターの規模では、これらに必要とされる機能を全て満たすことは不可能です。そのためには多くの人員が必要とされることへの理解と、各部局での適切な作業分担をお願いします。

参考ページ

- [1] センターホームページ: <http://www.cc.saga-u.ac.jp/>
- [2] 電子図書館ページ: <http://www.dl.saga-u.ac.jp/>
- [3] サービス中のサーバー一覧: <http://www.cc.saga-u.ac.jp/use/server.htm>
- [4] 利用者用 WWW サーバ: <http://userwww.saga-u.ac.jp/>
- [5] 利用者用 WWW サーバ (学外公開用): <http://extwww.saga-u.ac.jp/>
- [6] 教育用 LAN: http://www.cc.saga-u.ac.jp/system/intro/lan_plan.htm
- [7] センター日誌: <http://www.cc.saga-u.ac.jp/records/diary.htm>